お富士さん山開き！　第２弾

予定表では下町の富士ということになっていましたが、03 年みわ塾野外授業で、ほとんどまわっていますので、今回は山開きの行事をやっていそうな千住付近の富士山に変更します。すみません。

- 下谷坂本富士･････小野照崎神社、入谷の鬼子母神の近く。
- 南千住富士･････スサノオ神社、千住大橋のたもと
- 千住宮元富士････千住神社
- 大川富士････千住川田浅間神社
- 千住柳原富士････稲荷神社

7 月 1 日は富士山の山開き。何らかの行事をやっており、今日だけ登れそうなお富士さんをまわります。国指定重要有形文化財の下谷坂本富士。そのあと地下鉄で南千住のスサノオ神社の南千住富士に行き、千住大橋を渡って千住神社の千住宮元富士、大川富士（川田富士)、線路の反対側の千住柳原富士へと移動します。

みわ塾　講座　　三輪主彦（みわかずひこ）
〒173-0023　板橋区大山町 33-6　090-9827-8340
ホームページ　http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/

下谷坂本富士　この富士塚も国指定の重要有形民俗文化財

■小野照崎神社（台東区下谷 2-13）

この神社の祭神は小野篁という平安初期の儒学者で歌人だ。菅原道真の天神さまとおなじように、学問、芸能の神様として知られている。彼は下野国の国守となり「足利学校」を創立したことでも知られる。その後上野の国をへて今の神社の近くの照崎の地にしばらく居を構えた。当時この付近の人は小野篁のことを「上野殿」と呼んだので、この辺りは上野とよばれるようになった。篁の亡くなった後に、地元の人々が小野照崎大明神として祀ったのが起源になっている。

小野一族は古代からの名家、小野妹子の子孫で、小野小町、小野道風など有名人がいる。といっても本当の話か？　小野小町は秋田県出身だから新幹線も「こまち」、先日行った福島県の小野町は本家と言うし、茨城県新治村も出身地と称している。

全然話は違うが「小町算」という数遊びがあるという。次のようなものだ。何でこれが小町算なのかといえば、美しい数字列だからだそうだ。

1＋2＋3－4＋5＋6＋78＋9=100
123－45－67＋89=100
1×2×3×4＋5＋6＋7×8＋9=100
1＋2＋3＋4＋5＋6＋7＋8×9=100
1×2×3－4×5＋6×7＋8×9=100

■浅間神社

小野照崎神社の中にはいくつもの末社があるが、その中に浅間神社があり、富士塚が作られている。浅間神社のご祭神はご存じ　木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）。・・・・古事記によれば、天孫ニニギノ命が大山津見神の娘、木花開耶姫命（コノハナサクヤヒメ）と結婚。ニニギノミコトに一夜の交わりで妊娠したのを疑われたコノハナサクヤヒメが、疑いを晴らすために、産屋に火を放って、その中で火照命（海幸彦）、火遠理命（山幸彦）を生んだ。山幸彦は大綿津見神の娘トヨタマヒメと結婚しウガヤフキアエズを産む。しかしトヨタマヒメは正体がワニだったことを知られたために海に帰り、妹のタマヨリヒメがウガヤの世話をする。ウガヤとタメヨリヒメは結婚し４人の子どもを設ける。その一人がカムヤマトイワレビコ、すなわち初代の神武天皇である。

浅間神社の行事に火祭りがあるのは、このようないわれがあるからである。

■下谷坂本富士（台東区下谷 2-13）

この富士塚は都内に残る唯３つの国指定有形民俗文化財で７月１日の山開きは盛大に行われ、マスコミで賑わう。ふだんは登ることはできないがこの日に限って登山ができるので、我々も登ってみましょう。ここの解説版には以下のような文言がある。

『室町時代末期に角行という人が世の中の乱れに苦しみ、富士山に登り天下泰平、五穀豊穣の祈願をし、天下が治った処から富士山信仰が起こりました。当講の大先達である南沢正兵衛という人が江戸にこの富士山信仰を広く布教し、その人の門人で下谷坂本村にすむ山本善光が、当社の氏子はもとより江戸八百八町まで広く浄財を募り、富士山より岩石を運び天明年間（1782 年）富士山と同型の築山を完成し、その麓に浅間神社を奉斎しました。その後文政 11 年に大修復され、また現在東京に残っている富士塚の中で最も大きく荘厳な姿を有しています。毎年 6 月 30 日、7 月 1 日の両日に限り一般の登拝に開放されており、「六根清浄」の唱え詞と元気な子供達の歓声が夏の風物詩となっております』

南千住富士　スサノオ神社にある古い塚（小塚）が富士塚か？

■南千住・・・・・・小野照崎神社から地下鉄入谷駅から南千住に出る。

千住の宿場は北千住側で、千住大橋の南側の小塚原村あたりはその昔は宿場にはなっていなかった。小塚原には仕置き場（小塚原刑場）がある寂しいところだった。浅草の方から来ると泪橋のところで刑場にひかれる罪人との最後の別れをしたという。なんやら哀しく、暗いイメージのところだったが、南千住の駅の東側の汐入地区には大きなビルが建ちならび、今風の巨大なショッピングモールもできひたすら明るい風景を醸しだしている。いつまでも「コツ通り」のイメージではいけないだろう。

■スサノオ神社（荒川区南千住 6-60-1）

スサノオの命はアマテラス大御神の弟で、乱暴狼藉を働く悪者だった。だれの手にも負えなくなり、それを恐れたアマテラスさんは岩屋に隠れてしまった。あの天の岩戸の物語だ。ついにスサノオは高天原から追放されて下界に降りてくる。最初に新羅に降り、ここから出雲に移った。そこでヤマタノオロチを退治して、天叢雲剣（草薙

の剣）を手に入れ、大蛇に食べられそうになっていたクシナダ姫を妻にする。乱暴狼藉であったが、地上に降りてからはいろいろ活躍し、大国主命の大大おじいさんということで尊敬を集め、祀られることになった。スサノオは全国の八坂神社、氷川神社（簸川でヤマタノオロチを退治した）、スサノオ神社に祀られている。神仏混淆のころには祇園精舎の守り神である牛頭天王と混淆されていた。神仏分離に際して祇園さんは八坂神社になり、牛頭天王社はスサノオ神社になった。江戸の絵地図をみれば南千住のスサノオ神社は牛頭天王社とかかれている。

■蘇民将来

この神社でも「茅の輪くぐり」が行われている。これにはスサノオにまつわるいわれがある。ここのお札にも「蘇民将来子孫也」という文字が書かれている。「備後風土記」では武塔神（むとうのかみ・スサノヲノミコト）が南海路へ向かう旅の途中、裕福な巨旦将来に一夜の宿を乞うた。しかし彼はにべもなく断った。一方、巨旦将来の兄の蘇民将来は、貧しいながらスサノオ神を暖かく迎え入れもてなした。スサノオは大変喜び、「疫禍あれば茅の輪を作り門に懸けよ」とおおせられた。疫病が流行したとき蘇民将来は教えられたとおりに茅の輪を揚げた。疫病は蘇民将来の家を避けて、一家は災厄から逃れることができた。蘇民将来の一族は護られ、彼の子孫は後々まで大いに栄えた。「蘇民将来子孫也」の札をつけた茅輪や杉葉を門口に揚げておけば疫厄除けとなり、一家は繁盛するという信仰が生まれた。蘇民将来は、八坂神社境内にある疫神社の祭神になっている。

■南千住富士（荒川区南千住 6-60-1）

素盞雄神社社伝によれば、修験道の開祖・役小角の高弟である黒珍という人物が、住居の東方にある奇岩のある塚上を霊場とし、日夜斎戒礼拝していた所、延暦 14 年（795）４月８日の夜、小塚の中の奇岩が突如光りを放ち、スサノオ大神、アスカ大神の二柱の神が老人の姿を借りて降臨し、「吾れを祀らば疫病を祓い、福を増し、永くこの郷土を栄えしめん。」と御神託を授けられたのを受け、黒珍が祠を建てたのがはじまりであるとされている。昔は古塚と言ったらしいが、いつの間にか小塚になり、この辺りは小塚原となった。

この塚は 1864 年に溶岩を積み増して富士塚に改装され、富士浅間社となっている。その中腹の祠の中に瑞光石が祀られている。瑞光石は表面に小穴がぼつぼつとあいた「房州石」で、安房国の鋸山の近くで採取される。この石は埼玉や東京の 6 世紀後半～7 世紀台の古墳の石室材として広く用いられており、この房州石の存在により、この塚も古墳ではないかと推定されている。

このお富士山は高さ４メートルほどで登山道、お中道、小御獄社の碑、人穴も作られている。富士講の石碑も多く、山丸講、山丸瀧講、東講、山冨講、丸参講、丸藤講などいくつもの碑が建てられている。これらは 2006 年郷土資料館の調査報告が出ている。富士山の登山口には小塚には似合わないほどの大きな鳥居があり、両側に飛鳥社と天王宮のちょうちんが下がっている。ここが本来の社殿だったのだ。

千住宮元富士　千住のおふじさん

■千住宿

日光道中の最初の宿場で、東海道の品川宿、甲州街道の内藤新宿、中山道の板橋宿とあわせて四大宿場だった。江戸へ二里八町、武蔵国草加宿へ二里八町、という場所にあった。松尾芭蕉は千住大橋からこの街道を日光に向けて歩き出した。「奥の細道」には最初の泊まりは草加とあるが、それは芭蕉忍者説を隠すためのウソで実際は八里先の春日部まで１日で行っている。やはり芭蕉はただ者ではなかったのだ。

もともとの千住の宿は今の北千住の辺り。本陣も脇本陣も、遊里もこちら側にあった。

千住といえば私たちの年代ではお化け煙突というのも思い出の景色だ。これは千住桜木町の隅田川縁にあった東京電力の火力発電所の４本の煙突で、見る方向によって、1,2,3,4 本にみえるというものだった。昭和 39 年東京オリンピックの年に取り壊され、今は資材置き場になっている。

ところで、千寿ネギをご存じだろうか。明治時代に東京の鍋屋が「飛び切り甘くて煮崩れをおこさず、それでいて口の中に入れるととろける葱がある」と宣伝し、瞬く間に東京中の鍋屋、蕎麦屋、焼き鳥屋、すき焼屋などの料理職人の間に広まった。現在でもこれらの店の約八割は千寿葱が使われている。この人達が独占してしまうので一般には知られてはいないそうだ。ネギはともかく、このあたりの小学校はすべて千寿で、千住ととはかかない。これはなぜだ。聞いてみなければ。足立区在住の田口さん、教えて！

■千住神社（足立区千住宮元町 24-1）

千住大橋を渡って日光街道から千住宮元町へ左折すると千住神社が見える。由来によれば千住に集落が形成され始めた延長 4 年（926）土地鎮護と五穀豊作を祈って稲荷神社を創立した。後に武蔵国一宮、氷川神社の御分霊を勧請し氷川神社を創立した。このために長い間稲荷神社と氷川神社の 2 つの神社があり、村人は「二つ森」と呼んだそうだ。明治 6 年には稲荷神社を氷川神社に合祀し西森神社と改め、さらに大正 4 年千住神社と改称した。祭神はお稲荷さんのウカノミタマ命と氷川さまのスサノオ命である。延命稲荷もあるそうなので SEKI 根さんどうぞお参りを！

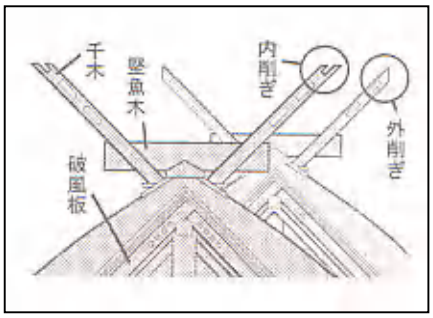
■千住宮元富士（足立区千住宮元町 24-1）

社殿の脇に金網で囲った富士塚がある。黒ボクと称せられる富士の熔岩で覆われているが、ふだんは登ることはできない。写真をとるにも金網が写ってしまって風情はない。本日は写真チャンス。私も登ったことがないので、今年は楽しみです。石碑を少し観察してみよう。

丸参講、丸藤講などの富士講石碑が多数あり、貴重な資料になる富士塚である。

大川富士　荒川のほとりにあるお富士さん。川田富士とも言う。

■氷川神社（足立区千住大川町 12-3）



足立区には氷川神社は多い。武蔵国の一宮はさいたま市大宮の氷川神社である。これはすばらしく大きく格式も高いような気がする。そこで板橋区、足立区などには多くの氷川さまが勧請されたのだろう。前にも書いたように氷川さまの祭神はスサノオ命、本日はスサノオ街道ですなあ。氷川さんは近くに寄り添った男女神社がある。男女は千木と鰹魚木の数でだいたい分かる。内削ぎで偶数は女、外削で奇数は男であることが多い。ちなみにスサノオさんのお姉さんを祀る伊勢神宮内宮は内削ぎで 10 本、外宮の豊受神宮は外削ぎ 9 本である。

■千住川田浅間神社　富士塚（通称大川富士）
＜説明文による＞

富士塚は文政７年（1824）築造。祭神は木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）。現在地に移築される以前は、町の西北（元宿）川田耕地に、氷川社、稲荷社、浅間社が同じ境内に鎮座していた。明治四十四年荒川放水路開削工事開始に伴い、大正五年五月、現在地よりやや西側に移築された。その後東京都の水道幹線工事のため、昭和四十三年六月現在地に移築復元され、今日に至っている。

塚は富士山の熔岩を積み上げ、固めて築造され、高さ三メートルである。

山頂に、天保二年（1831）銘の石碑が安置されている。塔碑が多く、最古の碑は文政七年（1824）のもので丸藤惣同行富士三十三度大願成就とある。

この講社は、高田（早稲田）の身禄同行の枝講で、講名は丸藤千住十三夜同行と呼ぶ。講中は、千住五丁目と、千住大川町全域に及び、かつては対岸の埼玉講を含む広範囲な地域の農民中心の講社であった。毎年七月一日祭礼が行われる。

平成六年三月

荒川の土手から下がったところにある氷川神社境内にある。社殿の横に、なかなか立派な塚がある。マラソンをしている途中で偶然見つけたので、気分はいい。私は時々ここにやってきて、木花咲耶姫さまにお会いすることにしている。

ここの講は現在でも健在で、７月１日のお山開きには講の方々が大勢集まり、盛大に行事を行っている。我が仲間の SAKURA 井さんのお友だちも定年退職後元気でがんばっておられるようだ。七富士参りも行われているので、どこどこへいくのか聞いてみなければ行けない。

千住柳原富士　稲荷神社の隣にある富士塚。

北千住駅のまわりの町の名前はすべて千住なんとか町である。先ほどの千住宮元町、千住桜木町、千住橋戸町、などなど。宮元町、桜木町、橋戸町で十分通用するのに「千住」という頭が必要だったのだ。なかなか郷土への愛着が強い地域だ。安倍総理のいう美しい国造りのヒントになるかもしれない。

さてその千住柳原町、千住の中でも特別にゴチャゴチャした細い路地が入り組む町だ。稲荷神社を探すのに多いに苦労した。でも入れてくれないはずの富士塚も宮司さんの奥さんと話をしている内に、どうぞと言うことになった。うるさい犬を「かわい

いね！」などと心にもないことを言ったのが功を奏したのかもしれないが、まさに下町の匂いがプンプンという場所だ。好きな人には気分がいいし、いやな人は速く逃げ出したい地域かもしれない。しかし今どき東京都にもこんな向こう三軒両隣の町があるなんて。縁台をだしてビールを飲みながら通る人とちょいとした話をするなんていい感じなのだが・・・・

■千住柳原稲荷神社（足立区柳原 2-38-1）

＜説明文から＞

当社の創建は詳らかではないが「葛西誌」に「慶長４年（1599）の鎮守の云」とある。しかし柳原村は、元禄年間に葛飾郡小谷野柳原村より分村独立しているので、それ以降に村の鎮守として祀られたものであろう。江戸期にあっては理社院持ちであった。祭神は、宇迦御魂神。明治十二年の東京府神社明細簿によると、本社殿、拝殿、境内二百三十五坪（官有地）とあり、境内社として、高木神社（産霊神）と日枝神社（大山咋神・東照宮）の二社があり、氏子は三十五戸と記されている。

高木神社は江戸期の第六天社で、神仏混淆をされた明治以降に改称した。また日枝神社は高木神社に合祀された。

■千住柳原富士（足立区柳原 2-38-1）

昭和八年、柳原講によって浅間神社が勧請され、富士塚が築かれた。これは昭和五十九年度区登録有形民俗文化財である。講中による七富士巡りなどが行われている。

また当社に奉納される柳原箕輪囃子は、江戸期より伝わる民俗芸能で、区登録無形民俗文化財である。

平成二年十月　東京都足立区教育委員会

※　８月は暑いのでお休み。９月１日は清瀬のお富士さん。ここでは火祭りが行われますので、夕方から行きましょう。富士吉田の火祭りに習って、江戸の富士でも火祭りがあったようですが、東京で行われているのは清瀬の中里富士だけだろうと思います。お楽しみに！